

別紙

三菱ケミカル株式会社 広島事業所 温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

三菱ケミカル株式会社 広島事業所

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市御幸町20番1号

(3) 業種

三菱ケミカル株式会社 広島事業所 …1632 脂肪族系中間物製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25（2013）年度を基準年度とし、
令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量(a)	目標年度 上段：見込量(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成25年度 (2013)	令和12年度 (2030)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
エネルギー 起源CO ₂	672,436	537,936 -20.0	548,377 18.5				
非エネルギー 起源CO ₂	44,686	35,749 -20.0	26,972 39.6				
メタン	109	107 -1.8	247 -126.6				
一酸化二窒素	2,839	2,271 -20.0	3,463 -22.0				
その他 温室効果ガス							
温室効果ガス 実排出量総計							
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・非発電所で木材チップの混焼を基準年度（平成25年度）は実施していなかったが令和3年度は実施し、非エネルギー起源CO₂は39.6%削減した。一方で木材チップの燃焼によりメタン(126.6%)、一酸化二窒素(22.0%)は増加した。 ・テクノUMG(株)大竹事業所はテクノUMG(株)より報告。 						

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：**基準製品換算生産数量(t)**

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a)	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成25年度 (2013)	令和12年度 (2030)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
エネルギー 起源CO ₂							
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
温室効果ガス 総排出量							
エネルギー消費 原単位(原油換 算kl)							
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	運転条件見直しによるユーティリティ削減	2327原油KL	令和3年度 生産能力増による原単位削減 運転切り替え時ロス削減
2	機器更新による省エネ	26(t-CO2)	令和3年度 インバータエアコンへの更新による電力量削減
3			
4			
5			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1	特になし	
2		
3		

○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組み
	廃棄物の削減及び再利用		<ul style="list-style-type: none"> ・場内焼却炉による廃油発生量の低減 ・焼却灰の再資源化検討
	省エネCO2削減		<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン温度管理徹底（夏28℃以上、冬20℃以下） ・蒸気ロス（トラップ含む）管理の徹底

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。